

— 「ふくしま再生の会」の田植えに参加して—

行動隊員 杉山隆保



「行動隊」の5月の活動として19・20日の両日、富岡町の帰宅困難地域にある住宅の草刈りと家の保全が取り組まれました。

また、25・26日には「ふくしま再生の会」との協働作業も取り組まれました。

「ふくしま再生の会」は、2011年からいまだ帰宅困難地区の残る飯館村で、住民自身が線量を測定するなど現地のありのままの状況を明らかにしつつ、営農による「飯館村再生」を通して、原発に依存しない支配されない「ふくしま再生モデル」を構築するべく様々な事業を展開している団体です。

<http://www.fukushima-saisei.jp/>

今回は「ふくしま再生の会」の活動に学ぶべく、飯館村での田植えに参加しました、以下はその参加報告です。

さて、25日は深夜バスで福島駅まで行き、新幹

線で来られた「再生の会」の溝口さん(東京大学農学生命科学研究所教授)、若林さん、本山さんの皆さんにピックアップしていただき駅レンタカーで飯館村佐須に向かいました。「再生の会」は駅レンタカーを頻繁に活用されているようで従業員は「今日はどなたのお名前で」と尋ねていました。霊山にも「道の駅」が出来ていて昼食を購入。

佐須の「再生会」事務所に着いたところ、人が溢れていました。聞いたところアメリカ、ネパール、スウェーデンの方々が前日の24日から来られていたようでした。この夜の交流会は地元の方もお招きするので約75人にもなると話されていました。

事務所の中が混雑しているので若林さんと私は事務所の外にビールの空き箱で椅子とテーブルを作り昼食を摂るような状況でした。溝口さんは昼食後には田んぼに計測器を取り付けに行き、私と若林さんは鎌倉から来られる北村さんを待ちました。その他の参加者は田尾代表の案内で村内見学に出発。夜の夕食を作る佐野シェフとそのスタッフは交流会会場の霊山センター(「再生の会」が借用しているNPO法人小児慢性疾患療育会による子どもたちのトレーニングセンター)に出かけました。

残された、北村、若林、杉山の三人は翌日に行われる佐須地区の老人会会場である佐須小学校(廃校)で畳や床を拭く準備作業に駆り出されまし

た。作業終了後は霊山の峠のアイスクリーム店「まきばのジャージー」のソフトクリームで一息入れてから霊山センターで先発メンバーと合流し、交流会の準備に…。杉山は風呂の当番を引き受けました。

霊山センターは7年ぶりに子どもたちが使用するのでベッドや布団が新しくなりこれまでの宿泊所と一変していました。

夜の交流会は人数が多いので料理は立食方式で準備され、ネパール料理、スウェーデン料理、アメリカの料理も並べられていて国際色豊かなものでした。参加者の紹介は田尾代表の司会で各グループの代表が名前だけの紹介を行いました。



不死鳥の如く

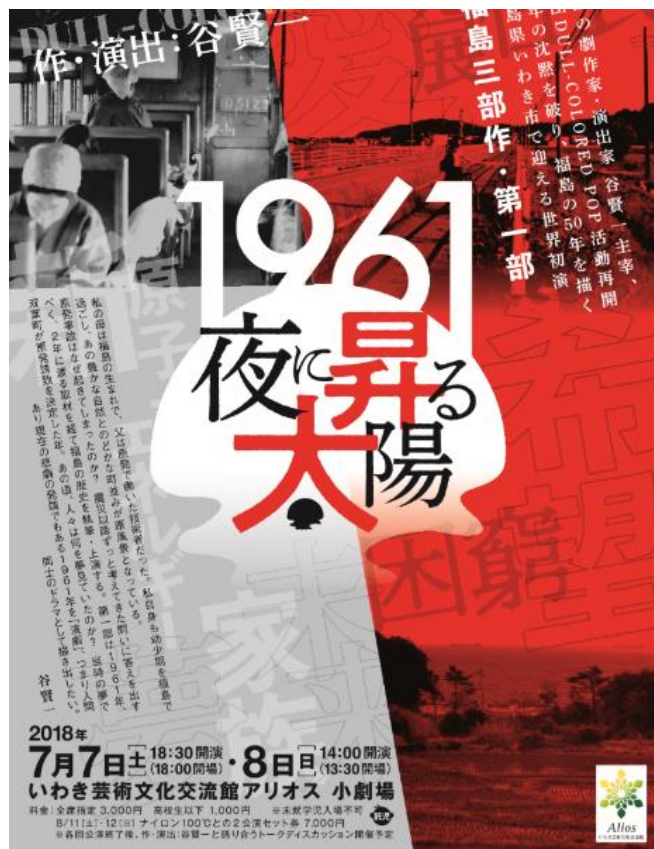
乾杯のお酒は昨年、佐須の田んぼで収穫した酒米で作った大地の恵みを飯館の地から「不死鳥の如く」(写真)が振舞われました。音頭は菅野宗夫さんが行い、大きな歓声が上がりました。事故から7

年を経てみんなで作ったお酒です。

この日は劇団「DULL-COLORED POP」の谷賢一さんら多くの演劇人も参加していました。谷さんは「1961:夜に昇る太陽」の劇作家であり演出家です。この1961年という年は双葉町が原発を誘致した年です。谷さんご自身が福島で幼少期を過ごされていて、お父さんは原発で働いていた技術者です。

「原発事故はなぜ起きてしまったのか？」事故以来ずっと考えていて今回、三部作に創り上げました。

初演はいわきで7月7・8日に上演されます。その後、東京公演が「こまばアゴラ劇場」で行われます。



26日はいよいよ本番の田植えです。大きな熊手のような物が大久保金一さんの指導の下に田尾代表の手によって作られていました。これで、田んぼの中に線を引き、その線上に約30cmの間隔で苗を5~6本束にして植えていくのです。この線と線の間がやはり約30cmの幅でこの間を歩きながら植えるのですが、田んぼの土は粘りが強く、みんなまっすぐに歩けずに苦労していました。

すると、畔の上で参加者の田植えをみていた宗夫さんのお父さんの次男さん(92歳)がやおらズボンの裾をまくって裸足になり田植えを始めたのです。植えるスピードは速く、支援者は驚くばかりでした。



これを金一さんが「昔取った杵柄だ」と言って笑いを取っていました。

動画も

<https://www.facebook.com/FukushimaSaisei>

にあるのでご覧ください。

田植えが終了した後は「田の神様」に感謝する「早苗饗(さなぶり)」を行い 50 人近い参加がありました。

去年は収穫祭に行き、坪刈りと土壌のサンプル

採取を行いました。今年は「行動隊」の活動として大勢で行きたいものです。



理事会が開かれました

6 月 15 日、理事長の招集により、理事 5 名・監事 2 名が全員出席して公益社団法人福島原発行動隊の理事会が開かれました。

理事長から、平成 29 (2017) 年度事業報告(案)及び決算報告(案)が示され、原案通り全員一致で承認されました。

また、流動性資産の一部を定期預金とすることが提案され、平成 29 (2017) 年度に「ドローン購入積立資産」としていた普通預金を定期預金とすることが承認されました。

これらの決定については、6 月 29 日(金)午後 1 時から社員総会を開催し、報告します。

「第 72 回院内集会 低線量自然放射線の人体への影響」開催のお知らせ

7 月 26 日(木)11 時、参議院議員会館(予定)で第 73 回院内集会を開催します。

講師は、公益財団法人体質研究会

<http://www.taishitsu.or.jp/hrf/>

の秋葉澄伯氏です。

環境放射線に被ばくすることによるがんリスクの評価・検討の現状について、「原子放射線の影響に関する国連科学委員会 (UNSCEAR) 2017 年報告書」をもとに紹介、解説いただきます。

<講師からの講演主旨>

2018 年 3 月に公表された原子放射線の影響に関する国連科学委員会 (UNSCEAR) の 2017 年報告書では、環境放射線に被ばくすることによるがんリスクが評価・検討されました。対象となった主な研究は、テチャ川流域住民やインドケララ州カルナガパリ住民でのがんリスク、イギリスや欧州での小児がんリスクなどです。

環境放射線被ばくでは、比較的低い線量に長い期間にわたって被ばくすることにより、累積した被ばく線量が低線量の目安である 100mGy を超え

ることが少なくありません。実際、自然放射線レベルが高いことで知られるケララ州カルナガパリ地域では、5 万人以上の住民が累積で 100mGy 以上の被ばくを受けています。しかし、住民にがん患者が増加したというデータは得られていません。一方、テチャ川流域では、マヤーク核施設から再処理のときに生じる放射線の液体廃棄物が川に流されたことで深刻な放射能汚染を生じ、住民に白血病などが増加しました。この二つの調査を比較しながら、疫学調査の結果を評価する際の注意点についてお話ししたいと思います。

また、イギリスや欧州では自然放射線レベルが特に高いわけではありませんが、環境放射線への被ばくにより小児がんリスクが増加するとの報告が相次いでいます。これらの調査結果を、どう考えるべきかについても、お話ししたいと思います。

【連絡会議にご参加ください！】

SVCF 事務局では、毎週 1 回、事務運営やプロジェクト事業の進捗確認をするために、午前 10 時 30 分 - 正午に連絡会議を開催しています。この連絡会議は行動隊 (賛助会員も含む) のメンバーなら、どなたでも参加できます。多くの皆様のご参加をお待ちしていますので、ご都合をおつけいただきご参加ください。

【7 月までの活動予定】

- | | | | |
|--------------|-------|--------------|-------|
| 6 月 29 日 (金) | 10:30 | 連絡会議 | 事務所 |
| | 13:00 | 社員総会 | 事務所 |
| 7 月 6 日 (金) | 10:30 | 連絡会議 | 事務所 |
| 7 月 13 日 (金) | 10:30 | 連絡会議 | 事務所 |
| 7 月 20 日 (金) | 10:30 | 連絡会議 | 事務所 |
| 7 月 26 日 (木) | 11:00 | 第 72 回院内集会 | |
| | | 参議院議員会館 (予定) | |
| | | 院内集会終了後 | 後連絡会議 |
| 7 月 28 日 (土) | 10:30 | 週末連絡会議 | 事務所 |

